



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / ミズナ

永利 武仁さん (35歳)

(営農地 / 小郡市)

自分のやり方で農業を営む

《就農のきっかけ》

転機は24歳

5人兄弟の末っ子だった永利さん。両親は、リーフレタスなどの露地野菜を栽培していました。そんな両親を見て「農業という仕事は、ずっと働きっぱなしのキツイ仕事だ。しかもあんまり稼げない。」と感じていたそうです。

高校卒業後、さまざまなアルバイトを経験し、就農するとは考えてもいませんでした。しかし、24歳のとき、地元に戻り「農業をしよう」と思うようになりました。

農業に対するイメージがよくなかったこともあり、どうせやるなら、自分流のやり方で、「儲かる農業」をしたいと思いました。

《これまでの過程》

自分のやり方を模索しながら

農業について何もわからず、がむしゃらにスタートしたため、親との衝突も絶えませんでした。そんなときは、地元の先輩に相談し、悩みを聞いてもらいました。

就農して1年後、自分で独立した経営をしようと思い、ハウスを40a建て、ミズナを栽培することにしました。ミズナを始めた初年度は、ちょうど高単価で出荷量もそこそこあったので、まさに当たり年でした。

「ミズナで経営が成り立つ」と確信し、その後は、2年おきに規模拡大を進めてきました。また、規模拡大とともに雇用も積極的に導入し、今では11名を雇っています。

雇用者の教育も行い、雇用者が育つことで、仕事がうまくわかっていくと考えています。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、妻、子ども4人
- 営農年数 / 約10年
- 従業員数 / 常時11名(日本人6、外国人実習生5)、外注20名
- 耕作(経営)面積 / 施設200a
- 販路 / JA共販

《これからの展望》

常に先を考えて

まだまだ失敗することもあります。特に、ミズナは夏場の生産が難しいため、これからも品種の選定や、土づくりなど、工夫しながらやっていきたいです。

周年軟弱野菜は、「安定的に出荷物がある」ことが最大の強みになるので、今後も規模拡大をして、雇用も増やしていきたいと考えています。そして、量だけでなく、品質もいいものを作りたいです。

また、それと同時に、新規品目の模索や、販路についても検討しています。今は、ミズナも安定した生産・販売ができていますが、この先ずっと続くとは考えにくいので、常に先のことを考えながら、いろんな情報を収集しています。



Good 成功のためのポイント

何に対しても積極的に取り組むようにしています。行ってみたいところがあれば、仕事に段取りをつけて行くし、やりたいことがあれば、仲間を誘ってやる。そういったことを心がけています。

農業は、家族と一緒に仕事をする事が多いので、悩みなどは地元の先輩など第三者の客観的な意見を聞くことで、解決できることもありました。

また、どうしても目先の収入に考えがいきがちですが、きちんと将来のことを見据えて、どういった経営を目指すのか、そのために何をすべきかを考えておくことが重要だと思います。